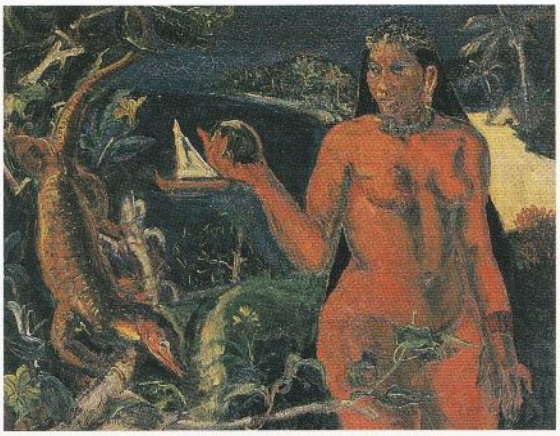
藤本東一良、国光與《パラオ島アバイ装飾浮彫拓摺　怪魚ヲトラヘル図》 1937年、拓摺り、町田市立国際版画美術館蔵

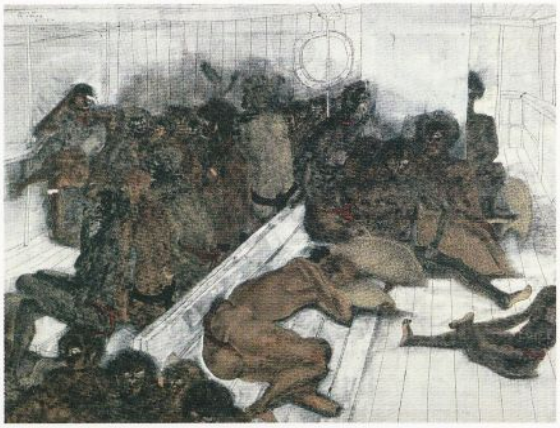


上野山清貫《サイパンにて》 1925年、油彩・カンヴァス、郡山市立美術館蔵

島田啓三『冒険ダン吉大遠征』 1935年、川崎市市民ミュージアム蔵

杉浦佐助《農家図》 墨・紙、個人蔵

《モクモク人形》 ウルシイ環礁の工芸品、蒲郡市立蒲郡西部小学校蔵



赤松俊子《アンガウル島へ向かう》 1941年、彩色・和紙、個人蔵

熱帯 楽園 浪漫 美術家たちの 南洋群島

土方久功《原始》 1929-42年、木彫、個人蔵

染木照《ヤップ島女人の舞踊装　ガチャパルのモロイ》 1939年、ステンシル・紙、町田市立国際版画美術館蔵

サイパンやパラオなど、今ではトロピカル・リゾートで人気の高いミクロネシアの島々に、大正から昭和初期にかけて、多くの日本人画家や彫刻家が訪れました。本展覧会はそうした美術家たちの作品を展示し、南洋の地で触発された表現の特質や、南への志向と日本の美術や文化の形成との関わりなどについて探るものです。

日本は明治になると、「南進論」のかけ声とともにミクロネシアへと進出を開始します。やがてその広い海域を「南洋群島」と呼び、第一次世界大戦勃発と同時に占領、1921年には国際連盟の承認を得て統治し始めました。こうした南洋の島に、ゴーギャンのように文明からの解放を求めて、あるいは民族誌学的関心などから、多くの日本の画家や彫刻家が訪れています。またその地での偶然の出逢いから美術を学び、造形作家となった者たちがいました。そのような人たちの中には、文明のありようとしての「南の問題」を真に自分の「生」の問題として抱え込みながら生きた者がいたといえるでしょう。

本展覧会では「南洋群島」で結ばれた土方久功（1900-77）、杉浦佐助（1897-1944）、儀間比呂志（1923-）の師弟関係に注目しながら、赤松俊子（丸木俊、1912-2000）や川端龍子（1885-1966）をはじめとした多くの美術家たちの作品を一堂に展示します。

この展覧会によって「南洋群島」で着想を得た知られざる日本の近代美術が明らかになり、それらの作品が異彩を放ちながらも、この時代特有の精神性を表現していることに気づくことでしょう。また画家や彫刻家たちの「南洋群島」行の背景にある南進の歴史やコロニアリズム、戦争の問題、さらに「南」へ向かう日本人の感覚や文化について再考する機会を提供することになると考えます。

展示構成と内容 ▶ 第1部「南洋群島」と日本：写真パネルや工芸品、文献などで「南洋群島」の歴史や文化、日本との関わりを紹介します。**第2部「南洋群島」に生きる――土方久功、杉浦佐助、儀間比呂志：**「南洋群島」で長く生活した美術家三人を紹介します。**第3部 画家たちの「南洋群島」旅行：**「南洋群島」を訪れた日本の画家たち約20名の作品を通して、彼らがどんな表現を行ったかを探ります。**第4部「南洋群島」を書く――本と装幀・挿絵**

■催事・イベント

講演会：講師・岡谷公二氏（本展監修者）◉美術館講堂
日時：4月29日(火,祝)　午後2:00より　聴講無料（手話通訳付き）

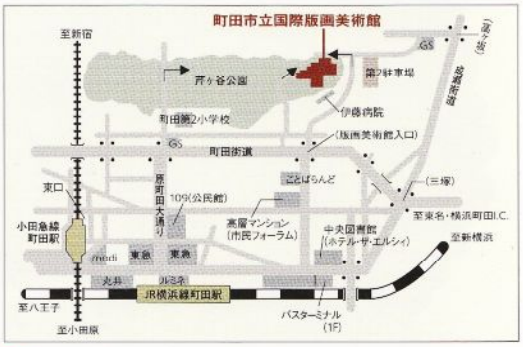
映画上映会◉美術館講堂
上映作品「海の生命線―我が南洋群島」（1933年制作、71分、モノクロ）
日時：4月26日(土)、5月3日(土,祝)　午後2:00より　観覧無料

学芸員によるスライド・レクチャー◉美術館講堂
日時：5月10日(土)、6月14日(土)　午後2:00より1時間程度　聴講無料

館長によるギャラリー・トーク◉展示室
日時：5月31日(土)　午後2:00より40分程度　観覧券が必要です

学芸員による展示解説◉展示室
日時：会期中の毎週日曜日　午後2:00より1時間程度　観覧券が必要です

トーク・フリー・デー◉会期中の毎週水、土曜日　展示室で会話を楽しみながら鑑賞下さい



町田市立国際版画美術館 Machida City Museum of Graphic Arts
〒194-0013 東京都町田市原町田4-28-1 Tel.042-726-2771 Fax.042-726-2840
[コールセンター] Tel.042-724-5656 [交通] 小田急線・JR横浜線「町田」駅より徒歩15分